2007年4月1日
第15号 Page 1

手賀沼が海だったころ

手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会会報

発行人 青山 茂
編集人 久川玄二郎
柏市松ヶ崎791－3
〒277－0835
TEL&FAX
04－7134－8833

市民協働で松ヶ崎城跡の環境保全をしよう

2006年7月16日。当会は城跡北東側のバス道路沿いに「松ヶ崎城跡」の横断幕を設置した。この看板には、より多くの市民の方に松ヶ崎城を知って頂き、来て頂き、触れて頂いて、もし出来れば私達の活動に参加して頂きたいという願いが込められている。

当会は今まで、地域史の研究活動に加えて、毎年、春秋の城跡の清掃活動を恒例行事とし、見学会や自然観察会などを随時行ってきた。が、これからは、今までの活動からさらに一歩進んで、各地の里山保全や棚田の保全活動を参考に、竹炭焼きや丸太の利用等の活動を通して、より保全の実をあげたい、そういう活動もしたいと考えている。

その理由は松ヶ崎城跡は2004年7月1日に柏市の文化財指定を受けたが、現在まで松ヶ崎城跡は、いわば知る人ぞ知る存在で、放置されてきたからである。これは誰も触らず、立ち入らず、いわば保存には、都合が良いかもしれない。しかし、木々は生長し、竹は繁茂し、やがては木を枯らし斜面を崩落させる。里山は利用され人手が入ることによって、維持され保全されてきたのである。松ヶ崎城跡の場合は里山とは言えない側面もあるが、放置することをもって保存というのはいささか無理があろう。

松ヶ崎城跡は民有地である。土地所有者には経済的な負担だけでなく、隣接の人家や農地への配慮も負担になる。2006年9月の大雨の後、10m以上もある杉の木が農地に倒れた。根元には竹が密生していた。一方、周辺は新築ラッシュで倒木の危険に加えて、落ち葉による雨樋の詰まり、日照の問題があり、加えて城の内部には枯死した杉がいたるところに山積している。これらを、土地所有者と私たち市民協働で整備したい、実際に城跡で汗を流したいというのが、今までの活動と違う点である。私たちは所有者の増田富夫氏と話し合い、看板を設置すること、より多角的な利用や保全活動を協働で行うことで合意した。

これからは団塊シニアと呼ばれる方々が大量に出現する。ちょうど時を同じくして、県立手賀沼自然ふれあい緑道と大堀川リバーサイドパークが接続され、城跡すぐ下の木崎橋を通過することが可能になった。城跡を見る方は格段に増えることであろう。この方たちが余暇の活用、健康増進の一環として、当会に参加されることを願ってやまない。

（久川）

バス道路沿いに設置した看板

木崎橋から松ヶ崎城跡を望む
手前は大堀川

平成19年度総会・講演会のお知らせ

日時 平成19年4月22日（日）
場所 柏中央公民館 5F 講堂
日程 10時~12時 総会
13時~15時半 講演会 会費 大人500円 中高生300円
「小金牧の開墾」－北総の夜明け－
講師 中村 勝氏（柏市史編さん委員）

＊＊＊＊講演会の詳しい説明は8面にあります＊＊＊＊

目次:

城跡清掃とたこ焼き親睦会 2
看板作成と設置 2
松ヶ崎城跡で炭焼きを 3
炭焼き論 3
手賀沼南岸にひっそり
たたずむ箕輪城址 4～6
臨時役員会報告 7
平成18年度活動記録 8
講演会のご案内 8

環境保全

城跡清掃とたこ焼き懇親会　２００６．６．３

城跡の清掃活動は毎年春と秋に行っている。冬の間に土地所有者の増田氏が枯れ木や倒木を伐採し集積などの整備をされたので、林内は非常に明るくなりごみは少なかった。

午後は雨のため、城跡で行う予定の懇親会を松葉近隣センター調理室に変更。野草のてんぷら、混ぜご飯、サヤインゲン、ホウレン草、トマトその他季節の野菜を皆で料理。この日のNO1は川上さん伝授の山古志風「木の芽味噌」。山椒を味噌・酒・味醂で和えたもの。絶品と評判。たこ焼きは終わりに近づくほど旨くなって…。この企画は後に会に新しい風が吹いたと言われた。

松ヶ崎城跡での清掃活動
前列右端は土地所有者・増田氏

松葉近隣センターでのたこ焼き懇親会

看板製作と設置　　２００６．７．１５～１６

看板設置の経緯は、春の総会での会の名称変更の議論に遡る。手賀沼や松ヶ崎城の名を外して、「東葛歴史研究会」のような広い地域を包括する名称に変更しようとの提案に、私（久川）は文化財指定を求める署名運動の時も、さらに現在でも感じている事だが、松ヶ崎城の名称も場所も、柏市民どころか地元住民にさえ認知されてはいない、案は無いが何か方策を取るべきではないだろうかと述べた。その後の役員会でも、さらに青山さんに同行して、土地所有者の増田氏宅へ挨拶に伺った際も、繰り返し何度も申し上げたため、それでは看板か横断幕を実験的に作製してみようという事になった。計画では3カ所に設置し、特に常磐線からも見えるように、出来るだけ文字を大きく書く事、実験だから、出費は出来るだけ抑えるように要請された。試行錯誤の結果、トラックの防水シートと白布ガムテープで作製したが、この間何度も「窮すれば通ず」経験をした。例えば布ガムテープは、切り取る為の下書きが見えないのに、白いデルマトだけはかすかに透けて見えたのだ。松葉町の野球場で、遠くからでも見えるかの実験もした。

7月15日に松葉町の公園で残りの文字をスプレーで塗り、昼に鉄塔下で増田氏と落ちあい、設置する場所を決めた。その後、増田氏と会食をしながら話をするうちに、増田氏の人となりがよくわかり、貴重な機会であった。午後も青山さんの倉庫で、汗ダクダクの作業が続いた。

翌日昼設置。設置の時に青山さんが梯子に登りロープを木に縛り付けた事、小柳さんの兄上（元東京消防庁）が、応援に駆けつけて下さった事が忘れられない。こうした協働作業で看板は完成した。青山さん、浦久さん、川上さん、小柳さん、小柳さんのお兄さん、山下さん、渡辺さんご苦労様でした。

設置後半年が過ぎ、看板のスプレーは剥がれたものの「松ヶ崎城跡」の文字は残っている。増田氏が斜面の樹木を伐採しているため、時折不安そうに見上げる人がいる。増田氏は斜面を削って間知石を積み、道路を敷設する計画である。

看板の効果は、北柏駅と柏の葉キャンパス駅を結ぶバス路線の沿線であることから、通行者に松ヶ崎城の名称は少しずつ浸透し始めたようだ。しかし城の南側、西側を通行する人や常磐線、国道6号線と16号線を通行する人たちには、効果は無いようである。

7月15日、増田氏と真砂家で会食。

環境保全

松ヶ崎城跡で炭焼きを　　久川　玄二郎

市民協働による環境整備の構想は、青山会長と市教委･文化課と看板設置場所の協議をした時からあった。文化課の吉田さんが「私の夢は市民協働でここの環境保全をすることです」と語ったとき、思わず私も「実は私もそう思う」と言ったのだった。後で聞いた話では「青山サロン」ではこんぶくろ池周辺の整備を例に市民協働の話をたびたびしていて、松ヶ崎城跡ではまだ誰も手が出せなかった、ということらしい。

看板設置後も城跡の看板下の道は、伐採した竹で埋め尽くされたままであった。約100mに、幅2~3m、高さ1mの竹や粗朶の堆積。底は風化して土になっているから、相当長期間、放置されたままになっていることがわかる。しかも市道である。これをなんとかしたい、竹を撤去して入口を整備したいと強く思うようになった。私には以前別の場所で竹藪の竹を片づけた経験がある。切って束ねて可燃ゴミ収集日に出す、それを3年間繰り返した。その間何か他に方法はないかと考え、インターネットで各地の環境整備活動で炭焼きが行われていることを知った。当時はその後の難しい事態など想像出来なかったけれども、炭焼きのノウハウを入手し、ドラム缶窯作製や、温度計キットを入手したり、組み立てて頂いたりと準備を進めた。その間にも竹を運搬する通路の草刈りをしたり、大渡さん、吉田さん、浦久さんと半日がかりで竹を割り、炭用、燃料用の竹の準備をした。

8月26日に初釜の火入れ。見物を含め15人も集まって頂き無事終了。阿部先生が黙々と燃料用の竹を切っていたり、青山さんがじっと見守っていてくれたり、武藤さんが2日間もつき合ってくれたり、北さんがコーヒーを差し入れてくれたりと楽しい炭焼きtai体験であった。しかしブログ「松ヶ崎城跡で竹炭焼きを」で記しているように、市の環境部は炭焼きを野焼きと考え禁止したい意向である。かつてこのあたり一帯の山持ちはどこも炭を焼いていた。ここでは保全には炭焼きは非常に有効であることだけを記しておく。

8月から11月まで4回の炭焼きを行い、約半分、40mの竹を片付けることが出来た。成果は鉄塔下からマンション方向へ歩いて行き城内部に到達できるようになった事、竹炭でサンマを焼き、コーヒーを沸かし、ダッチオーブンでカレーや鳥のもも焼きをしたなど、大勢でアウトドア料理が出来たことである。松ヶ崎城跡でいかに多くの人に納得して頂いて環境整備に参加して頂くか、それはに何かしら楽しみがなければ継続できないと思う。市の姿勢は市民協働を理解していないとだけ記しておこう。私たちは私達なりに今後もさらに協働の輪を広げたいと思う。

次の方々のご協力なしに、竹炭焼きは出来ませんでした。本当に有り難うございました。

堀　久好　　様（ノウハウ）
鈴木光男　様（釜製作）
村田丈夫　様（温度計組み立て）

炭焼き論

周辺に農地、林地、住宅地、工場地、商業地が混在している松ヶ崎城跡で、さらに都市近郊で、竹炭焼きを手法として環境保全をする事の意義について考えてみる。

山奥ならいざ知らず、松ヶ崎城跡のようなところで炭焼きなどとんでもない、という論がある。その論は煙・臭いが住民生活を害するということを根拠にしていると思う。広報かしわ　平成18年12.1「良好で快適な生活環境を」によると「17年度の大気汚染の苦情185件中179件、18年度は10月末現在で117件が野焼きに対する苦情」であったという。

4回実施した炭焼きではいずれも、煙・臭いともにほぼ林の中で消滅した。周辺のマンションに居住されている方も、煙・臭いともに感じなかったと言った。「どこで炭焼きをやっているの？」と聞かれるほど気がつかない。伐採後時間が経過していて、竹が十分に乾燥していたからだと思われるが、最適燃焼時間も当初予定した7時間の半分位、4時間くらいであると思う。

あの堆積された竹を撤去するには、可燃ゴミ収集袋に詰めて指定日に出す方法もある。袋を購入し、細かく割り、袋に詰め、指定日に集積所に運ぶ。しかし市の焼却炉でゴミとして、焼却する社会的費用と比較して、ドラム缶で竹炭焼きをして、出来た炭を活用する、さらに炭焼きに至る過程での市民参加意識の醸成、それはレクレーションでありボランティアでもあるけれど、を考えると、こちらの方が格段に意義があると思うのだ。

炭焼きで竹酢液を取り、炭とともに販売して会の収益にしよう、という話もあった。しかし、竹が乾燥しすぎていて、竹酢液は全く取れず、炭の質も満足できる出来ではない。それに炭焼きの準備や作業時間を考えると、とても販売目的だけに炭を焼く気にはなれない。が、サンマを焼いたりお茶を入れたりするには問題なく使えた。

見えてきたのは、私たちが日常何気なく過ごしている生活や社会の、矛盾である。循環型社会を目指そうといいながら、炭焼きにさえ圧力がかかる。少し前、瀬戸内海の豊島で産業廃棄物が問題になったように、都市部のゴミを人目の付かない所に持って行って捨てるのは、都市住民のエゴである。だから松ヶ崎城跡の放置された竹は、出来るだけ炭焼きで片付けて次の目標に向かいたいのだ。

ブログ「松ヶ崎城跡で炭焼きを」http://blog.goo.ne.jp/matsugasakijyodesumiyaki/

参考　柏市ダイオキシン類発生抑制条例

城郭研究

手賀沼南岸にひっそりたたずむ箕輪城址

森　伸之

去る2006年4月30日、「地域史を語る会」の延長で、中津川さん、山田さん、筆者の有志３名は、旧沼南町箕輪にある箕輪城址を訪ねた。この件については、正式に会のなかでも報告していなかったので、この機会に以前訪ねた時の内容を報告するものである。

当日昼前に、沼南公民館で待ち合わせ、筆者の車の運転で箕輪城址のある手賀沼病院まで行った。この箕輪城は、手賀沼南岸の旧沼南町庁舎の近く、大木戸交差点辺りから北へのびる五条谷台地を新道沿いにしばらく行き、「五条谷」のバス停付近で左に入り、手賀沼方面へ北上した台地先端部にあった。その台地の北側下は水田のある低地となっているが、それは近世の干拓によるもので、中世においては台地の下まで手賀沼の水面が迫っていた。

前述の通り、今は城址には手賀沼病院が建っているが、思っていたより遺構が残っている。台地先端部は東西に広がり、台地北西と東南に小谷津があって、台地へ入り込んでいて、城があった場所は、その谷津で東南へ斜めに首を振った形になっている。現在、城址西側には手賀沼病院が建っていて、主郭である第１郭の中央部分が駐車場となり、第４郭全部と第３郭の西よりの一部が病院の建物や機械設備などが建って破壊されている。

我々は手賀沼病院の駐車場に車を止めた後、まず駐車場の脇にある第１郭の土塁に登って、周辺を見て歩き、第１郭から南側の第２郭、さらに第３郭と、殆ど山林のなかというような場所を堀底におりたり、土塁に登ったりしながら踏査した。ただ、第１郭の北側は急崖で入ることができず、あとで山田さんが北側の低地面から城址を見てみたいと言ったので、最後に車で回ろうとしたが、意外に交通量が多く、止める場所もなかったため、そちらからは見ていない。

城域は東西約280m、南北180mというが、かつては、病院建設時にすでに失われていた最西部の第５郭を含め、５郭は存在したことは確認されている（さらに西側に第６郭、第７郭があり、７郭存在したという説もあるが、第６、第７の区画が郭であったかどうかは確認されていない）。もっとも、今も視認できる郭は、第１郭から第３郭で、第４郭がなんとなく想像できる程度である。なお、病院建設に伴う発掘、および実測調査は、昭和56年（1981）、同57年（1982）、同61年（1986）に実施された。

今回、昭和57年の実測調査にも加わった中津川さんが案内してくれたので、以前の様子との対比も含めて遺構の成り立ちが分かりやすかった。また、中津川さんの足のはやいこと、第１郭の東の堀を藪をかき分け降りていって、二重土塁になっているのを確認してくれたが、山田さんも筆者も、そこまではついていけなかった。

山林に残存する遺構

第１郭は城址中心から北東に位置し、北側は後世の土取りによって急崖となり、その部分の遺構も失われているが、東南を除くと一辺60mほどの方形であるのに、東南部があたかも嘴のように突出していて、かつてはその50mほどもある嘴部分の内部は堀のように深くなっていたという。そのような嘴状になっているのは、その南側に横たわる土塁が古墳を利用したものであり、古墳の原形はわからないが、その形状に規定されているためである。

現存する遺構は、第１郭の南側古墳を利用した土塁（一部削られている）、嘴状の東南の突出部、東側土塁と第４郭と境界を形成していた西側土塁の一部、東側、南側を取り巻く空堀、第１郭の南側にある第２郭全体とその南側にある空堀と土塁、第１郭、第２郭の嘴状となった東側先端部を結ぶ腰郭、第２郭と西側にある第３郭の間にある空堀、第３郭の東側の土塁の一部、南側の土塁、空堀などで、その殆どが台地の傾斜面に近い山林の中にある。

前述したように、当城址は西側、特に第４郭のあった部分に病院が建ったために、半分程度破壊されているが、主に東側に残存する遺構が往時の様子を伝えている。この城の築城時期は戦国期の何時ごろか正確には不明であるが、戦国末期に大幅に改修が加えられたことは間違いなく、非常に凝った作りとなっている。

城郭研究

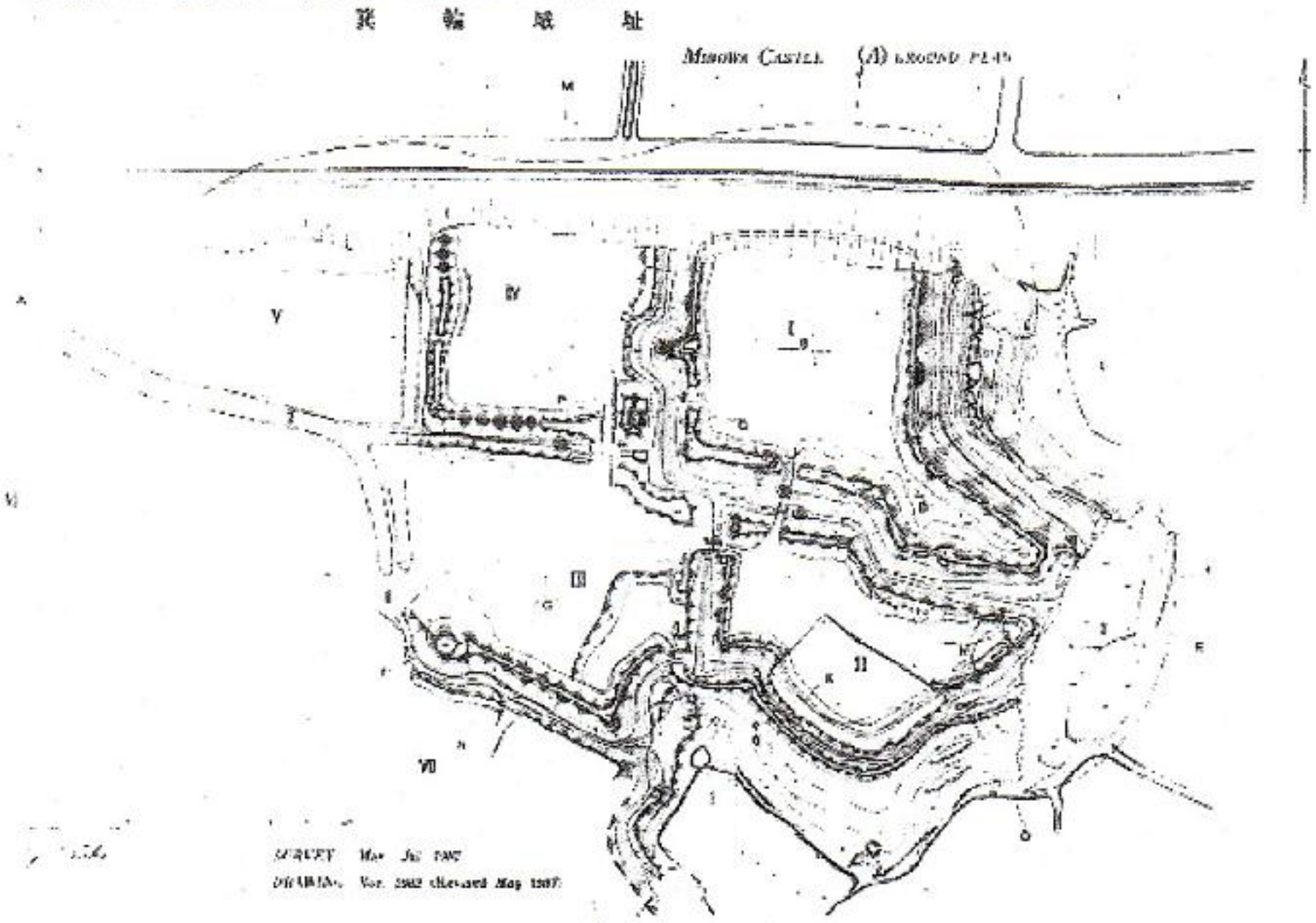
複雑な城郭構造

第１郭は南側の中央部分に虎口があり、南の第２郭との間の空堀には土橋（実測調査で植竹好明氏が微妙な土の盛上りから土橋ではないかと指摘、その後の発掘時に確認された）がかかって連絡しているが、第1郭の東南部の嘴状となった郭の延長部から横矢がかけられるようになっている。東南部の嘴状となった部分の南側の土塁は古墳を利用したものであるが、基底部8～9mで4～5mの高さがあり、第２郭との間の堀も薬研堀となって深さ4m以上あった。第１郭の東南部の嘴状となった先端部の外側には小さな平場があって腰郭と認められる。東側土塁を北へ進むと急崖となって土塁がなくなるが、これは後世の土取りのためで、かつては北側にも土塁が回っていたと推定される。東側土塁の下も急斜面であるが、15mほど下ったところに土塁があり、二重土塁となっていた。

また、西側のなかほどに方形に突出した（土塁も凸形になっている）場所があり、第１郭と第４郭の間の空堀に侵入した敵に横矢を掛けられるようになっている。中津川さんの話では、この突出部は、以前はもっと顕著だったそうである。突出した場所から10mほど南に土塁が切れている部分があり、後世にあけられたものの可能性もあるが、そこが虎口とすれば、突出した部分は虎口の防衛を行うためのものであったと思われる。そして、今はない第４郭の東側、第１郭西側の突出部分に相対する部分は凹形にへこんでいた。さらに、その南側には独立小丘があったが、そこからは第1郭との間の空堀に入った敵に矢を射かけることができ、さらに西側の第４郭南西に開いていたらしい虎口を守る役割を担っていたと思われる。

第１郭の南にある第２郭は、第１郭の嘴部分と対称形で北東部分が鋭角に突出し、その頂点から約70mほど進んだ地点にある南側の中央部分を頂点とした逆三角形の西北側に約40m四方の方形がついた変形5角形のような形である。東側先端部の南側の一部と西北側の方形となった部分にしか土塁が残っていないが、かつては全面土塁で囲まれていたと思われる。南側は急斜面であるが、郭の南側には3～4mほどの深さで空堀がめぐり、さらにその南に土塁がめぐっている。

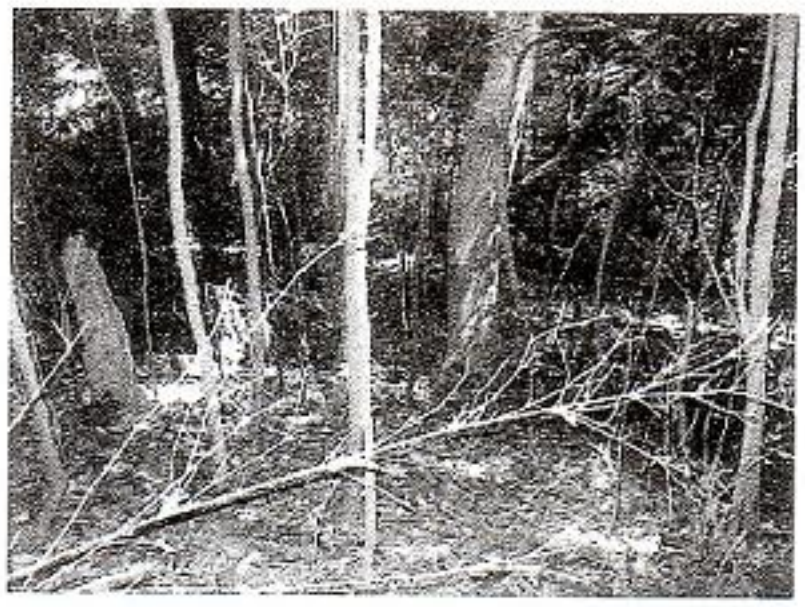
＜箕輪城址の実測図＆縄張図（植竹好明氏作図）＞



城郭研究

第２郭と第３郭の間にも深い空堀があって、郭を取り巻く土塁とあいまって区画されるが、第２郭の二重土塁の外側の土塁は、第３郭の南側土塁に連続していたと思われる。第３郭の南側には土塁が現存し、南東隅の土塁の屈曲部分と西側にあった虎口脇の円形の高所部分は、やはり古墳を利用したものであった。西側古墳は今では何かの倉庫がたって失われているが、南東隅の古墳は現存し、今回の踏査の際に盗掘か何かで掘ったような穴が見られた。南東隅の屈曲部分は古墳として確認されていたわけでなかったが、今回盗掘跡のような穴の周りに埴輪片が落ちていたことから古墳と分かった次第である。第３郭の南側にも3～4mの深さの空堀があって、堀底をたどって西に進むと、さきほどの西側虎口に出る。

実は以前の調査で、第３郭の南東側の台地南の低地に小道のような硬化面が見つかったが、それが実際に道でずっと続いていたとすれば、あるいは台地の南側から南東側の、かつての手賀沼の入江状になった部分に沿って船着場があったかもしれない。なお、硬化面が見つかった第３郭の南東側低地から北へ進むと第２郭の二重土塁の外側土塁に阻まれ進めない。そこで、西へ70mほど堀底を通って、西側虎口より第３郭に入り、東へ進むと第２郭との間の空堀があって土橋で連絡する虎口となる。第１郭へは、さらに前述の第１郭と第２郭の間の空堀にかかる土橋をこえて、虎口から第１郭へ入ることになる。また虎口へ入る際には横矢掛けの工夫が随所になされていて、戦国末期の城の特徴がよくあらわれている。



第1郭、第2郭東側の斜面中段にある腰郭

第1郭南の堀底から土塁を登る

城主と来歴

なお、当城の主や来歴は不明であるが、相馬文書にある「相馬五郎左衛門尉胤村分配状」によれば、「一後家分　相馬　同　　箕勾　薩摩　粟野　六■　」とあり、「箕勾」すなわち箕輪が鎌倉期には相馬氏の所領であったことは明確で、相馬氏の館も箕輪にあった可能性がある。しかし、それと当城址の関連は分からない。

箕輪城の作りから見て、戦国末葉の城普請が施されており、築城時期も戦国期の終り近かったと思われる。一説には、村の城で何箇村かで共同で作り、勢力の強い村から主郭を押さえていったという説もあるが、これだけの城は村人の力だけでは築城できないであろう。しかし、この城は「村落自衛的な城郭が形成された後（十五世紀末葉以降）に、発生した可能性が強い」、また城址の周囲には、かつて根古谷のような集落がなかったという植竹好明氏の指摘もあり、他の手賀沼周辺の城と事情が異なり、一地域の統治というより、主に軍事目的で築城されたものであろう。

この城は小金大谷口城の支城であったという説もあるほど、手賀沼、大津川を押さえる戦略的な拠点であり、特に手賀沼の水運を意識したものである。

この箕輪は、戦国末期には、高城氏が領有していた北限に近い場所と推定される。さらに、横矢を多用する城の構造からみても高城氏の城であった可能性が高いと思われる。かつて、この城を舞台に、古河公方と千葉氏との関係を背景に女城主日女若と敵の隠密との恋というテーマで笹川臨風が小説を書いているが、当城に女城主がいたなどというのも勿論創作である。

また、発掘調査で堀のなかから応永16年（1409）銘の宝筐印塔が出土しているが、それは破城の儀式のために故意に堀に入れられたものであるという。

箕輪城をまわった我々は、さらに船戸古墳群の一部の古墳と柳戸砦址も見学した。柳戸砦址のある下柳戸の集落は、近年まで一つの井戸で集落全体の水をまかなっていたという。この辺りも興味がつきないのであるが、長くなるので、この辺で。

（参考文献）『東葛の中世城郭』
千野原靖方　（2004）崙書房
『沼 南 町 史』
沼南町教育委員会（1979）

役員会通信

7月16日、松ヶ崎上跡での看板設置。青山会長ははしごに登りロープで横断幕を木に縛り付けました。
2007年1月5日、動脈剥離のため慈恵医大柏病院に緊急入院。一日も早い回復を願っております。

臨時役員会報告　　2007. 2. 16

青山会長の入院を受けて2月16日夜、臨時役員会を開き、対策を話し合いました。その結果、月例会は休止するものの、一連の計画は予定通りに進めること、会の運営は当面臨時役員会を夜間に随時開催し、事務局を久川が担当する事にしました。会の存亡の危機にあたり、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

1. 例会について
昨年来「地域の歴史を話す会」を引き継ぐ形で開催されてきた例会は、極端に参加者が少なくなり存続に疑義が生じておりました。開催日を毎月第1日曜から土曜日に変更するなどの工夫を重ねましたが、参加者は役員のみで例会=役員会になっており、暫く調整期間をおいて再出発を図りたいと思います。目的ある活動があれば、その趣旨の元に再開させて頂きます。

2. 今後の会の運営について
今後の会運営のあり方、方向について意見を交換しましたが結論は出ませんでした。月例会などの積み重ねを活動の主体にするか、見学会・講演会を主体にするか、歴史と自然の活動分野をどう調整するか議論しましたが結論は出ませんでした。

見学会や炭焼きなどのフィールド活動では参加者も多く、今後も多数の参加者が見込まれます。今までも出来る範囲内でやってきたのであり、いわば「いい加減さ」のもとでやってきた、ということで暫くこのままで継続する事になりました。

3. HP、ML、会報について
HP(ホームページ)、ML(メーリングリスト)の管理は渡辺成子さん、森　伸之さん2人の担当となりました。会員内外への情報発信はHP、会員相互の意思疎通にはMLがあり、現在35名の方に登録頂いております。しかしこれらを利用できる方と出来ない方との間に、情報交換、情報入手の差が生じてしまい、情報伝達を改善する必要があります。遅れている会報の発行は、年3回程度の発行を目標に、編集を浦久淳子さんから久川へ暫くの間引き継ぐこととしました。一人に責任が集中すると今までと同じ轍を踏む危惧はありますが、会存亡の危機に際して緊急の措置をとらざるを得なくなりました。

4. ドメイン移行の際のトラブル
Matsugasakijo.orgがプロバイダー移行のわずかな時間的隙間に海外の何者かによって取得され、売り出されてしまいました。不正使用や、閲覧者に被害を及ぼす懸念が生じたことから、森さんが10万円弱(615ユーロ)で買い戻しました。これは緊急に対策を講じる必要があった為の止むを得ない措置でした。ドメインは会が培ってきた財産であり、個人負担にする事は不適切なので、会が全額負担することにしました。

5. 市民活動フェスタの参加について
フェスタの趣旨は、団塊シニアの方々を中心にこれから地域で何かをしたいと考えている市民に情報提供をしようというもの。昨年暮れに青山さんが実行委員になっていました。参加することに決定しました。実施日は5月13日(日)。会場は①そごう5階連絡通路(全参加団体がA3サイズのポスターを掲示)　②消費生活センター③京北ホール④柏駅東口Wデッキ上⑤駅前商店街です。1団体当りのブースは間口1.8m、奥行き1.8mでテントの半分。時間は10時から午後5時までの歩行者天国の時間。3月末現在の参加予定は66団体。

当会はWデッキ上の一番そごう寄りを割当てられております。城跡の模型などの展示、ビデオの上映、炭で焼き鳥と缶ビールの販売、「城跡と周辺の散歩地図」配布を計画しています。(Wデッキ上の会場についてはフェスタ実行委員会と警察等とが協議中で、占有スペースが狭くなる可能性があります。)

6. ビデオのDVD化
ビデオが経年劣化することから、DVD化の検討を小柳さんにお願いしました。

7. その他
・青山さんへの見舞い金
・鷲野谷の歴史散策(中津川さん担当)
・総会・講演会の開催など

以上(文責　久川)

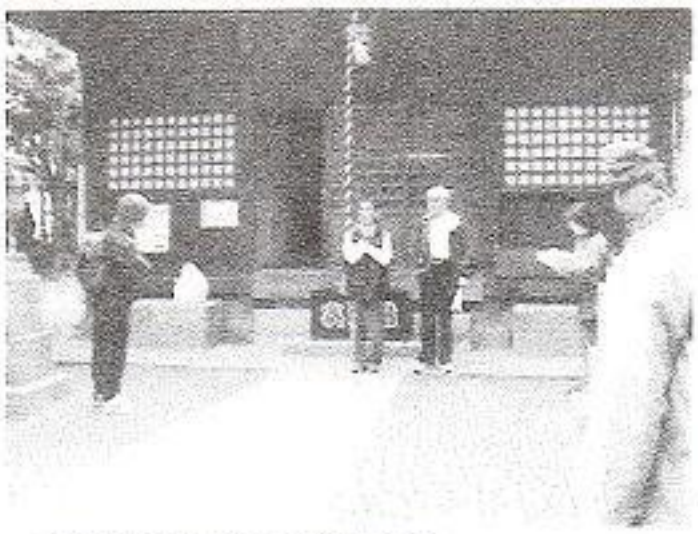
2006年8月　アミュゼ柏での例会

インフォメーション

平成18年度活動記録

2006年
- 4/23 花野井散策・総会
- 6/ 3 松ヶ崎城跡清掃
  たこ焼き懇親会
- 7/ 2 例会
- 7/16 看板(横断幕)設置
- 8/ 6 例会
- 8/26 炭焼き初釜(15名参加)
- 9/ 2 例会
- 9/17 第2回炭焼き
- 10/ 8 松ヶ崎城跡見学会(39名参加)
  第3回炭焼き
- 11/ 4 例会
- 11/23 第4回炭焼き
- 12/ 8 松ヶ崎城跡清掃
  忘年会(10名参加)

2007年
- 1/ 6 例会
- 2/ 3 例会
- 2/16 臨時役員会
- 3/ 4 鷲野谷散策(18名参加)


花野井散策・香取神社

花野井散策・秋水の燃料庫跡

松ヶ崎城跡見学会

松ヶ崎城跡見学会

予告 2007・5・13
柏市民活動フェスタ
JR柏駅東口Wデッキ上

鷲野谷散策・「古墳之址碑」

鷲野谷散策・医王寺

講演会のご案内

小金牧の開墾—北総の夜明け—
講師 中村 勝氏(柏市史編さん委員)

日時 2007年4月22日(日)13時～15時半
場所 柏市中央公民館 5F 講堂
会費 大人500円 中高生300円

柏では現在、TX柏の葉キャンパス駅を中心とした新しい街づくりが進みつつあります。東葛地域の主要部分は、江戸時代、幕府直轄の馬牧でした。明治新政府になって、失業した旧武士階級などの救済のため、牧の開墾が始められ、それが殖産興業の一つの柱になったのですが、開墾は生易しいものではありませんでした。これらを資料をもとに、江戸時代から昭和まで続く、開墾の人間ドラマを語っていただきます。

主催 手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会
後援 柏市教育委員会・松戸市教育委員会

http://www.matsugasakijo.net/
ホームページもご覧下さい

本会は、手賀沼と松ヶ崎城を中心とした、地域の身近な歴史を研究する中で、見失われがちな地域の文化を再認識し、再構築すること、および史跡と周囲の自然環境を一体として捉える『歴史的自然環境』を街づくりに活かすこと、をめざして活動しています。

経済成長とともに急激な開発がなされ、消滅したものが多い千葉県東葛地域の中で、今あるものを良い形で未来へ残し、伝えていきたいと思っています。年に数回の史跡見学会、講演会、松ヶ崎城跡の清掃などを行っています。 年会費 2000円

手賀沼と松ヶ崎の歴史を考える会
事務局 〒277-0835 柏市松ヶ崎791-3
久川 玄二郎 TEL&FAX 04-7134-8833